

のうじでんそう

農時電送

R3 水稲 No.①

JA新函館・若松支店
せたな地区水稲部会

JAきたひやま

北檜山町農協地区水稲部会

JAいまかね

今金町稲作部会

檜山農業改良普及センター
檜山北部支所 (84-5514)

＜ 育苗目安に準じた早めの移植を！ ＞

苗の出芽は良好で順調に生育しています。それぞれ苗質を確認（特に葉齢）し、適期を失しないよう計画的に移植を進めて下さい。不時出穂リスク回避のため、早生系の品種（ななつぼし等）を最優先に移植を行ってください。

【移植に向けた管理】

＜移植時苗質目標＞

育苗様式	草丈 (cm)	葉数 (枚)	乾物重 (100本/g)
成苗ポット	10～13cm	3.6～4.5	3.0以上
中苗マット	10～12cm	3.1～3.8	2.0以上

左表を参考に老化苗になる前に移植を行きましょう。5月一杯を目途に！

＜移植前の追肥＞

移植3～5日前に追肥・・・弁当肥、移植後の活着・発根を促す。

育苗形式	箱マット	成苗ポット・型枠
銘柄 育苗液肥	100倍液・500ml/箱	200倍液・500ml/箱
NP化成	7g/箱	3.5g/箱
硫安	5g/箱	2.5g/箱

※育苗緩効性肥料(マイクロロング、エコロング等)を施肥した場合は不要。

【適期移植について】

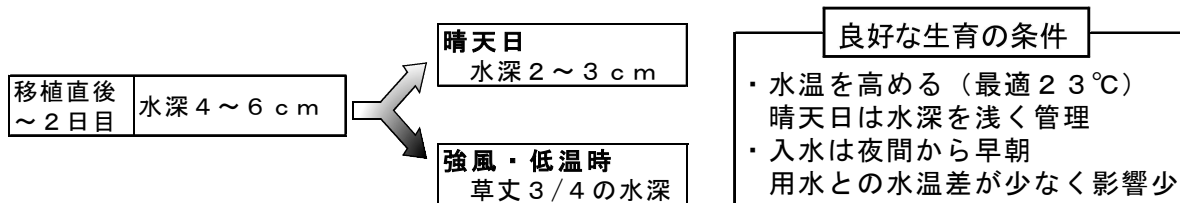
＜移植作業＞

移植は強風・低温は避けましょう。植付深は1.5～2.0cmを目安とし、初期茎数の確保に努めましょう。高品質米は下記の栽植密度を遵守し、疎植栽培は避けるようにしましょう。

育苗形式	中苗マット	成苗ポット
移植限界気温 (移植後5日の平均気温)	12.0℃以上	11.5℃以上
栽植密度	25株/m ² 以上 (株間11～12cm)	22株/m ² 以上 (株間12～13cm)

＜水管理＞

天候に応じ、下図を参考に水深を調整しましょう。水深が深く葉先が水面にたれると、ヒメハモグリバエが産卵しやすくなります。水深2～3cmの浅水を基本にしましょう。



農作業安全・事故防止！ 農薬の安全使用の徹底！